

相互評価ルーブリックシート

- 各発表を聴き、このシートに沿って評価する。
- 評価は別紙『記録用紙』に記入し、閉会の全体会后に提出する。



評価の観点	めざす姿	3 良好	2 注力を	1 今後の課題
A 研究の意義 先行研究の把握 研究の有用性	<ul style="list-style-type: none"> ● 先行研究についてよく調査・理解している。発表内でも先行研究について話題にできている。 ● 研究に有用性がある。有用性について話題にできている。(研究目的が達成されると社会のどのような分野・場面で役立つのか) 	先行研究を踏まえ、 <u>先行研究との違いを明確にした、新規性のある研究活動</u> となっている。研究に有用性がある。	<u>先行研究を踏まえた研究活動</u> となっている。	
B 課題の設定 明確な目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 今回の研究で挑む課題・明らかにしたい点が明確である。分かりやすく述べられている。 ● 論理的に検証が可能な課題を設定できている。 	課題の設定が <u>明確である。分かりやすく述べられている。</u>	課題の設定が <u>明確でない。分かりづらい部分がある。</u>	
C 道すじ・手法 論理展開 研究手段	<ul style="list-style-type: none"> ● 「この実験で何が分かるのか」、「なぜこの実験で研究の目的達成に近づくことができるのか」といった実験の原理や論理の展開が明確で、分かりやすく述べられている。優れた着眼点に基づいている。 ● 用いている研究手法が妥当である。また、独創性・新規性・一定の専門性の高さがある。 	研究・実験の原理や内容、論理の展開が <u>妥当かつ明確である。独創性がある。分かりやすく述べられている。</u>	研究・実験の原理や内容、論理の展開が <u>明快でない。実験内容が、多くの人が簡単に思いついたり実行したりできそう</u> である。	研究・実験の原理や内容、論理の展開が <u>分からない。または、論理がおかしいと感じる。</u> 実験が、 <u>適当な手法ではないと感じる。</u>
D 研究の深度 考察の論理性・信憑性 PDCA	<ul style="list-style-type: none"> ● 実験や試行で得た結果に対する考察(何が分かったか・次どうするか)が深く行われている。また、考察がいずれも何らかの理論に基づいており論理内容が妥当である。 ● 実験や試行で得た結果を、先行研究などの文献の情報に照らし合わせながら考察している。 	考察が <u>深く行われており、その内容も妥当である。</u>	考察を <u>述べているが、内容に不確かな部分や適当でない部分が多い。</u> 「たぶん〇〇ではないか」といった想像の域に留まる部分が多い。	実験や試行で得たデータ・結果を紹介するだけに留まっており、 <u>十分に考察できていない。</u>
E 研究の活力 試行回数・前進	<ul style="list-style-type: none"> ● 効率よくスピード感をもって研究を進められており、データ量や試行回数が多い。 ● 実験結果に対する考察に基づいて、次の新しい実験に進むことができている。考察論理を裏付けるための実験を別に行うなどできている。 	データ量や試行回数が多い。結果に対する考察に基づいて <u>次の種類の実験に進むこともできている。</u>	1種類の実験や試行を行い、 <u>有意なデータ・結果を得られている。</u>	実験を行っているが、 <u>考察につながられるような質のデータを得られていない。</u>
F 伝える力 発表の体裁 話・ポスター 質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ● 発表の準備が十分にされている。また、伝えるべき情報を適切に取捨選択できており、洗練されている。 ● 話やポスター内容に、印象に残る要素や秀でた工夫がある。 ● 聴く側が、実験の手順や用いた道具・用いた数式やプログラム内容について具体的なイメージを持つことができる。 	<u>発表の準備が十分にされている。</u> 伝える情報の取捨選択されている。話やポスター内容に、 <u>印象に残る要素や秀でた工夫がある。</u>	<u>発表の準備がある程度されている</u> 様子である。 <u>目立った問題がなく平均的である。</u>	<u>発表の準備が十分にされていない様子</u> である。聴く側にとって分かりづらい専門的な言葉が多すぎる、スピードが速すぎたり不明瞭な表現が多いなど、 <u>分かりにくさや準備の不足が目立つ。</u>